

福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

副室長 野路 昌美

子育て支援室・相談室では、福井市委託事業「福井市子ども相談・子育て支援事業」を行っています。開所して15年が経過しました。特にこの2年間は、当所のような小さな場所にも、地域の子育て家庭の様々な思いが寄せられました。そこには、目まぐるしく形状が変化する社会のしわ寄せの波が漂っていました。私たちは、利用者や相談者に寄り添い、語りを受け止め、共感し、想いに耳を傾け、共に考えていきました。これらまるごとが子育て支援なのだ日々実感する1年でした。



「ママと子の絵本とわらべうたあそび」
桜木図書館 司書



親子講座「ミュージックケア」
ミュージックケアワーカー



仁愛女子短期大学
幼児教育学科 体験学習



親子プログラム
「クリスマスリース作り」

【相談室 ～子ども相談～】

相談室では、心理担当職員らが18歳未満の子どもの養育等に関する相談に応じました。相談者の多くは、子育て家庭の保護者です。内容としては、発達についての気付きを乳幼児健康診査や保育園から指摘されたことがきっかけで相談される方が多かったです。また、子育てや家族関係の負担等により精神的に不安定な場合もあり、その思いを聴き必要に応じて助言等を行いました。

<令和3年度 相談対応件数>

子ども相談のべ件数	開所日数
1,175件	307日

<令和3年度 相談主訴割合>

養護	障がい	性格行動	不登校	適性	育児しつけ	その他
32%	2%	15%	4%	1%	41%	5%

【子育て支援室 ～福井市地域子育て支援センター～】

子育て支援室は、今年度も福井市の指導に従い、時間予約制の運営を行いました。利用者が安心して過ごすことができるよう、入室前には健康状態の確認、県外移

動歴の確認を行わせていただきました。また、室内では、入室時と退室時に手洗いをお願いし、利用者同士が密にならないように声を掛けたり、定期的な換気をしたり、おもちゃや室内の消毒の徹底を図りました。

<令和3年度 来所利用者数>

総利用者数 (人)	保護者数		開所日数
	保護者数	子ども数	
5,895人	2,756人	3,139人	307日

<令和3年度 子ども年齢別利用割合>

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4～6歳児
26%	31%	18%	15%	10%

また、日ごろから、家庭生活の状況について利用者に見守っていただきました。「県緊急事態宣言中、家で引きこもり状態だった。晴れ間をみて子どもと外を散歩したり、子どもを公園で遊ばせたりもしていた」、「この支援室は、県外出身の利用者が多くいるのではないかと不安だったが、対策を十分にしていると聞かせてもらい安心した」、「県の緊急事態宣言の発令で、よく遊びに行く施



つくってあそぼう
「こいのぼり」



季節の行事
「おまつりごっこ」



子育て講座「入園について」
保育専門官



子育て講座「夏の健康」
助産師

設が臨時休館して、どこへも行くことができなかった。公園は日陰がなく、遊べなかった。幼稚園も休みになって、子どもの世話が大変だった。ここは、就学前まで利用できて、子育てのサポートもしてくれるのでほっとする。安心して遊べる」などの話を伺うことができました。

一方、宣言解除後には、天候の具合と重ねてか、利用予約のキャンセルが多くなる日があったり、県外から出産のための帰省があったりするなど、子育て家庭にもその変化が表れていました。

《子育て相談》

子どもの社会生活の場である保育園の入園や園生活についての心配ごとというのは、本当に次から次へと湧いてくるもので、時期を問わず様々な相談がありました。

「入園して昼寝がなくなり、家に帰ってからのぐずりやイヤイヤがひどくなった。子どもの対応に負担を感じる」、「園でトイレトレーニングが始まった。帰宅すると、子どもは尿意や時間に関係なくトイレばかり行くので相手をするのが疲れてしまった」という生活の困りごとや、

「3人目の育休中。4月から仕事復帰。息子2人は小学生。娘は保育園に入園予定。園の送迎や私が帰宅するまでの間、義母が3人の子どもをみてくれると言っているが、私も夫も定時に帰宅できない。義母の負担にならないかと心配」、「コロナ禍で保育園の見学ができないといわれた。どのように園を選んだらよいかわからない」、

「4月から入園する園に行ってみたら、たくさんの子どもがいた。うちの子が、コロナに感染しないか不安になった」という気がかりなこと、さらには「4月から保育園に入れようと思うが、1日預けることに罪悪感がある」と、不安を抱き申し訳なさそうな表情で話をしてくれた利用者もありました。

職員は、園での出来事と家庭での様子、それから一番大事な利用者（親）の思いを聴かせていただき、一緒に考え、不安や心配をひとつずつ軽減できるように対応していきました。

また、制限と共に暮らす生活については、今年度もさらに辛い思いを利用者からうかがうことになりました。

「感染症予防のため、自宅で子どもといる時間が多くなり、子どものイヤイヤ期も重なり、子育ての負担が増大した」そう話す利用者は、気持ちに余裕がなくなり、張り詰めた様子でした。また、「感染症予防で出かけることができない中、2歳の息子は、ごはんも食べないし、どうしてほしいのかわからない。子どものために一生懸命しているのに、うまくいかず疲れた」と、うまくいかないことで自分自身を責める声もありました。

気分転換をしてはどうかという話をよく耳にすることがありますが、気分転換とは口にするほどそう簡単にできるものではありません。

職員は、利用者の希望する過ごし方に寄り添い、少しでもリフレッシュできるように、関わり方の工夫に努めました。また、日常的な来所利用を促したり、心理担当職員との定期的な面談を提案したりしました。子どもに付きつきりで過ごす時間を負担に感じる前に、社会資源を利用する方法なども伝えながら、一緒に考えていきました。

《親子プログラムなど》

利用者に関心を持ってほしい内容や子育て力を高めてもらうために役立つ内容の話題提供を行いました。

項目	内容
子育て講座(学園連携含む)	・感染症予防の話 ・わたべうたあそび
親子講座(ボランティア講師)	・えっちゃん絵本よんで ・ミュージックケア
季節の行事	・たなばたの集い ・豆まきごっこ
親子プログラム	・ママと子のおはなし会 ・ふれあいあそび
親支援事業	・はっぴいずmama ・ほっとるーむ はぐはぐ
地域支援活動	・松本公民館 ・桜木図書館



親子プログラム
トーチ作り&オリンピックごっこ



地域支援活動
松本公民館

5月、福井に東京五輪聖火リレーがやってきました。親子でトーチを作り、子どもたちは上々な出来栄えのトーチを掲げて、職員の後について走ったり歩いたり、聖火リレーの様子をまねて遊びました。

新年には、「お正月あそび」と題して、福笑い、コマまわし、かるたあそびなど、昔ながらの季節あそびを体験しました。本物の木製のコマを用意してみたところ、子どもの頃にコマまわしをしたことがあるという利用者が、子どもに遊び方を見せたり、手を添えて遊び方を導いたりして、微笑ましい親子の姿がありました。

子育て講座「言葉の育て方」では、言葉の発達の道筋をはじめ、毎日の生活の中での様々な場面において「行動を言葉にして伝える」という言葉の育て方を学びました。耳や鼻の早期治療、食生活の大切さも教えていただきました。参加者全員が個別相談を希望し、講師からは具体的なアドバイスを受けることができました。

11月に開催した「感染症」の講座では、助産師に講師を依頼し、室内の環境整備（暖房・湿度・換気）、衣服の調整（吸水性・通気性・保湿性）、スキンケア（清潔・保湿）など、冬の過ごし方のポイントを教えていただきました。また、冬にかかりやすい感染症（インフルエンザ・ノロウイルス・ロタウイルス・RSウイルス感染症）については、その症状や対処方法を学ぶことができました。

参加者からは、「わかりやすく学ぶことができた。子どもの健康を守れるように注意したい」、「知らないことを知ることができて、今後活かしたい」など前向きな感想を多くいただきました。

今後も、利用者との会話や相談などから、話題を抽出し講座を企画していきたいと考えています。



親子講座「人形劇を楽しもう」
保育士サークル



親子講座「子どもの靴の選び方」
理学療法士

《はっぴいすmama》

転勤などで福井に転入してきて、地域のことが分からなかったり、そのことで自宅に引きこもりがちになったりしそうな気がかりさのある利用者に働きかけ、同様の境遇にある利用者同士が交流を図る場を設定しました。

新規の参加者だけではなく、数年間継続して参加してくださる方も仲間に入って、話し合いや情報交換を行いました。「生活の悩みが同じ」「分かち合えることが多い」「はっぴいすmamaがきっかけで、交流が続いている」という意見をいただき、取り組みの効果が表れていることがうかがえました。

《ほっとるーむ はぐはぐ》

子育ての不安感や困り感、ストレスなどが強いと感じている保護者が集まりました。心理担当職員がコーディネーターとして関わり、大人だけの空間を設定して、テーマに沿った話し合いを行いました。

子どもへのしつけや関わりのみならず、夫や(義)父母との関係に悩む声も聞かれました。互いの経験や気持ちを伝え合うことで、具体的な対処やストレス解消法など新たな知識を得ると同時に、ストレス発散、エネルギー補充、支え合いの場としての機能を担いました。

《学園連携講座》

幼児教育等を専門に研究する仁愛女子短期大学の教員を講師に招いて子育て講座を開催しました。また、学生の参加を得ることで、様々な世代が、子育て支援に参加する社会づくりの推進に取り組みました。

開催日時	テーマ/講師
9月12日(日) 10:00~10:30	「えいごであそぼう」 仁愛女子短期大学 野本 尚美氏
11月10日(水) 10:00~10:30	「わらべうたあそび」 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏
11月28日(日) 10:00~10:30	「いろいろな音を楽しもう」 仁愛女子短期大学 木下 由香氏
12月16日(木) 10:00~10:30	「おはなし会」 仁愛女子短期大学 松川 恵子氏



季節の行事
節分「豆まきあそび」



地域支援活動
桜木図書館

さて、講座に必要なものは学生らが手作りで準備をしてくれました。3歳位までの子どもが遊ぶ、絵本やわらべうたあそびをいろいろ検討したり、それらを提供する際のアドバイスを学内図書館司書に教えてもらったりしたこと。それから、計画を見直したり事前の練習を繰り返したりして、当日に臨んでくれました。そのような新鮮な感覚を持つ学生らが手遊びを提供すると、子どもたちは夢中になって遊びを楽しんでいました。

参加者からは「最初は、親である私が、先生となる若い学生を応援してあげようと考えていたが、子どもを楽しませようとする学生の熱意に、逆に応援してもらっているようで嬉しくなった」との感想をいただきました。

《仁短生 体験学習》

幼児教育学科2回生が、子育て支援の授業の一環として学外体験学習を行いました。学生らは、「親の心に寄り添って話を聴くことの大切さについて気がつくことができた」、「今日の体験を将来の保育の仕事に活かしたい」と感想を寄せてくれました。

また、生後3か月の赤ちゃんに触れた学生は、「かわいと思う気持ちを抱いた」「命の大切さや親の愛情を感じた」「親の子どもへの願いが込められていることを知った」など、実体験から多くを学んでいました。

《子育て支援ボランティア た・ま・ごの会》

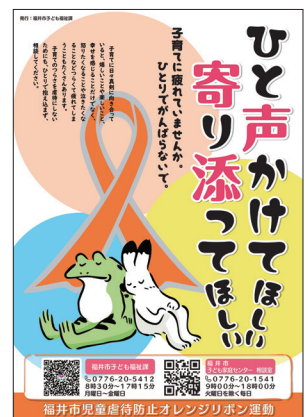
季節の壁面作りや親子活動の下準備、季節の行事のお手伝いなど計27回のべ43名の方々に活動いただきました。

行事に参加した親子は、自分らの祖父母や曾祖父母ほどの年齢にあるボランティアから、優しいまなざしや寄り添いの言葉をかけてもらい、穏やかな表情を見せていました。一方、今年度の活動の多くは、親子活動に使う工作パーツの作成やおもちゃ作りという手作業でした。緑の下の力持ちとして様々な形で利用者を支えていただきました。

【児童虐待防止普及啓発事業～オレンジリボン運動～】

今回、本事業では、子育て中の保護者が精神的ゆとりを持てることや市民に子育てへの関心を持ってもらいたいとの願いを込め『ひと声かけて寄り添って』というキャッチフレーズを掲げました。リーフレット等を作成し、商業施設や薬局への配付を行いました。また、福井市の広報チャンネル「いきいき情報ふくい」にて当所の案内番組の配信を行うなど、福井市と協働して児童虐待防止の周知を図りました。

福井市行政チャンネル
ふくチャンネル「いきいき情報ふくい」
<https://youtube.be/0rTAL7EZ6kU>



福井市児童虐待防止リーフレット・ポスター



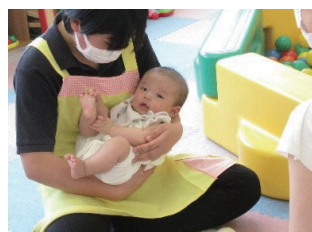
福井市子ども家庭センター
子育て支援室・相談室
ホームページ(PC版)



子育て講座「おはなし会」
仁愛女子短期大学 学生参加



子育て講座「えいごであそぼう」
仁愛女子短期大学 学生参加



仁愛女子短期大学
幼児教育学科 体験学習



子育て支援ボランティア
た・ま・ごの会